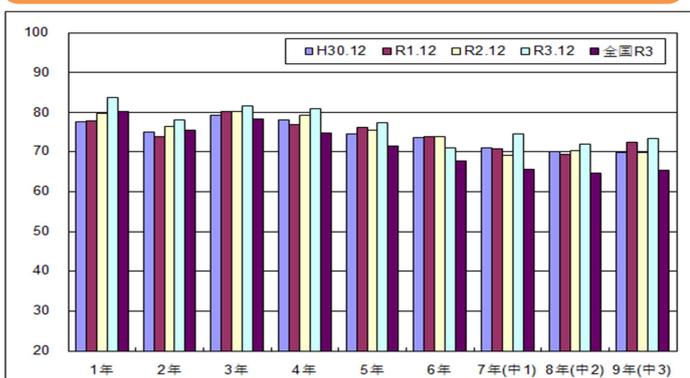


- 調査は箕面市の肯定率を全国平均値と比較
- 回答は、「そう思う」「少しそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の4つから選択
- 肯定率とは、選択肢の「そう思う」と「少しそう思う」の割合を単純に合計した値

【自己認識】 箕面っ子の自己肯定感は…

家族とのかかわり

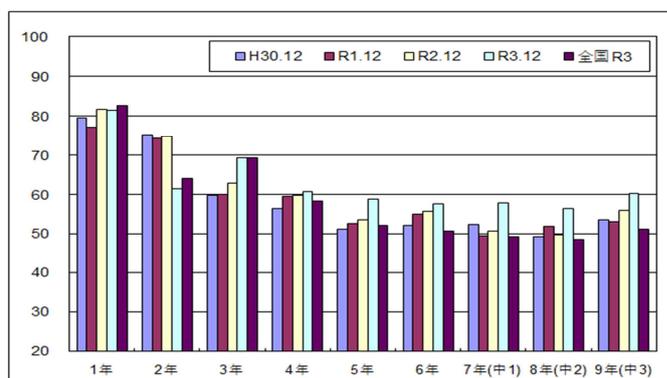
◆本当につらいことがあったとき、それを家の人のだれかに相談できますか。



安心して相談するでござる！

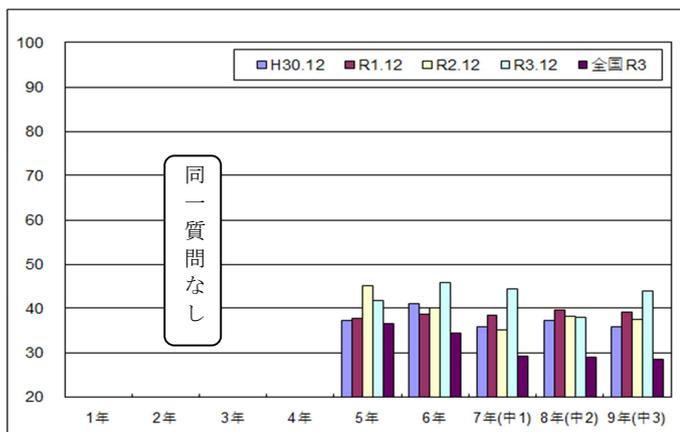
先生とのかかわり

◆本当につらいことがあったとき、それを学校の先生に相談できますか。

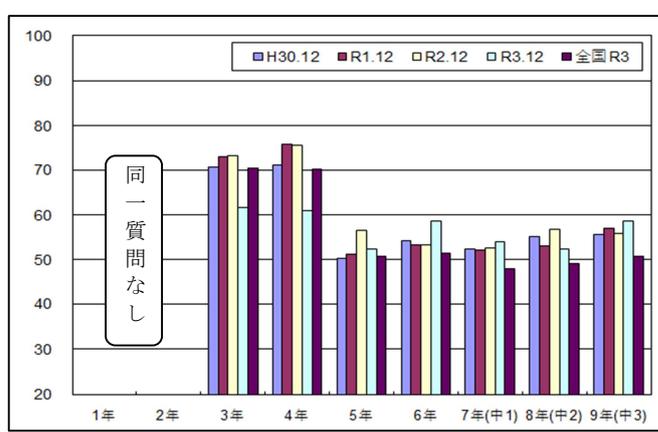


他者からの評価

◆あなたの発言は、クラスのみんなを動かす力があると思いますか。



◆学校の授業やクラスの役割などで、自分は先生から期待されているんだな、友だちからたよりにされているんだな、と感じることがありますか。



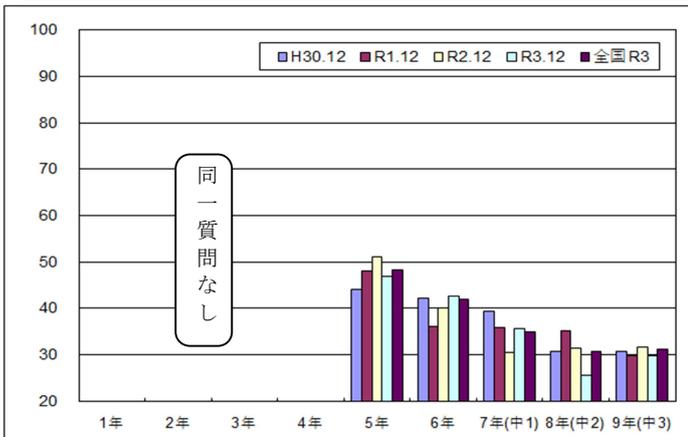
自己肯定感を「家族や先生とのかかわり」「他者からの評価」の2点から分析しました。「家族や先生に相談できる」という割合は、ほとんどの学年が昨年度の肯定率より高くなっています。「先生に相談できる」と回答した割合は、小学校3年頃から下がっていく傾向が見受けられますが、昨年度の肯定率より高くなっています。また、「自分にはクラスを動かす力がある」「期待されている、頼りにされている」と思っている子どもは、小学校5年になると肯定率が下がる傾向がみられますが、全国平均値と比べると高く、特に中学生では、高く推移していることが分かります。

自分の思ったことは、言葉にして伝えようね！

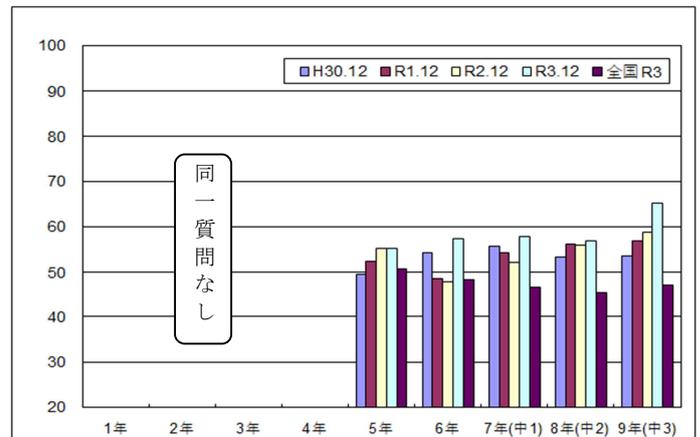


【社会性】 ソーシャルスキルは…

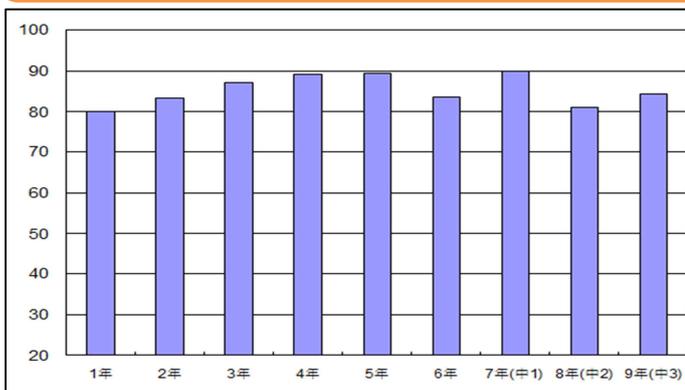
◆あなたは、学校生活の中で何回ぐらい、自分の意見を発表したり、先生の質問に答えたりしていますか。



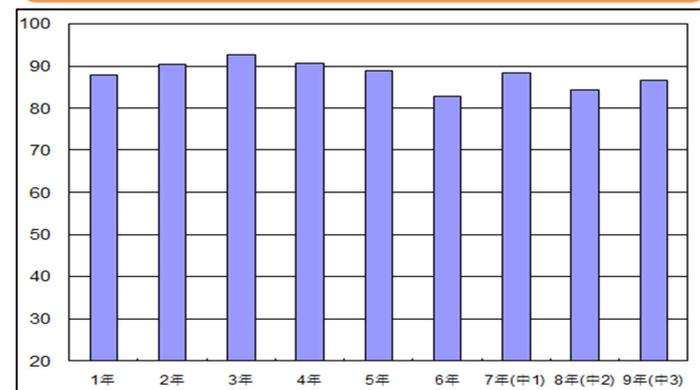
◆クラスの話し合いや友だちとの間で意見が合わなかったとき、みんなが納得できるように考えて、提案していますか。



◆学校の授業では、友だちと教え合う時間がありますか。

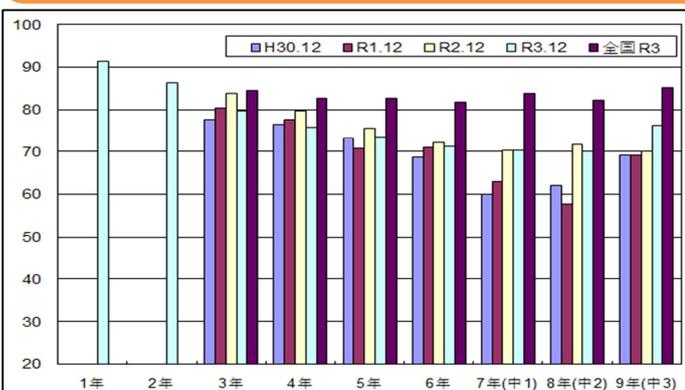


◆学校の授業では、となり同士やグループで話し合ったり、議論したりすることがありますか。

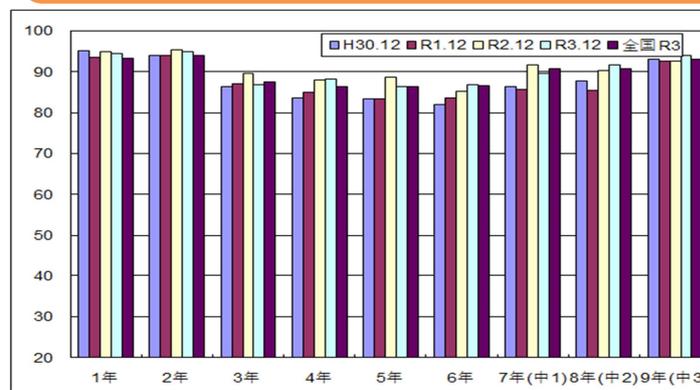


「意見の発表」は、昨年度よりやや下がった学年もありますが、「考えの提案」は年々、肯定率が上がっています。「教え合い」や「話し合い、討論」については、R3年度に新たに追加され、ほとんどの学年で80%を超える高い値となりました。思いや考えを伝え合う授業が各校で実施され、その成果が、児童生徒の意識変化に表れているのではないかと考えます。

◆あなたのクラスでは、みんながそうじ当番や係の仕事を、責任をもってしていますか。



◆学校の規則や、クラスで話し合って決めたことを、守っていますか。



「仕事への責任」は全国平均値と比べ、低い傾向にありますが、「規則を守ること」は、ほぼ同程度の値です。責任を持つことは、社会生活でとても大切であることを日頃から意識し、学校生活に臨む必要があります。

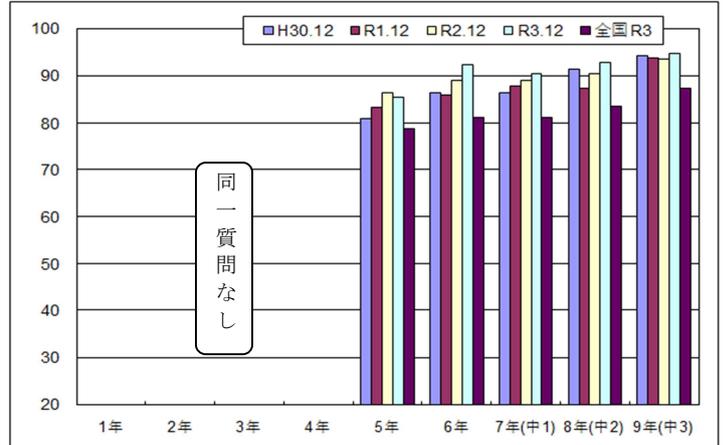
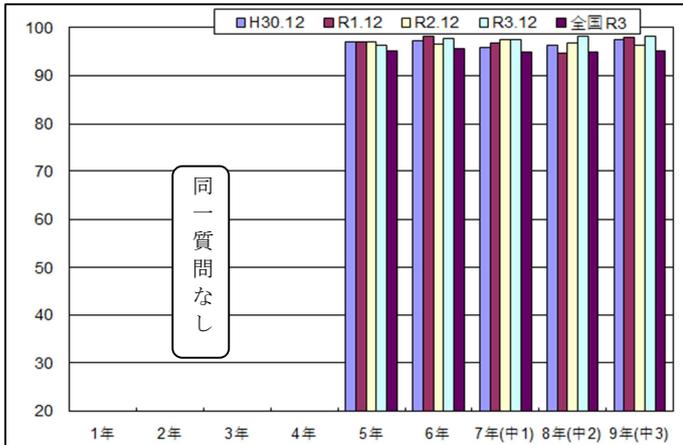
【対人ストレス】 いじめのサインは…

このグラフは、ポイントが高いほど
良好なのでござる！



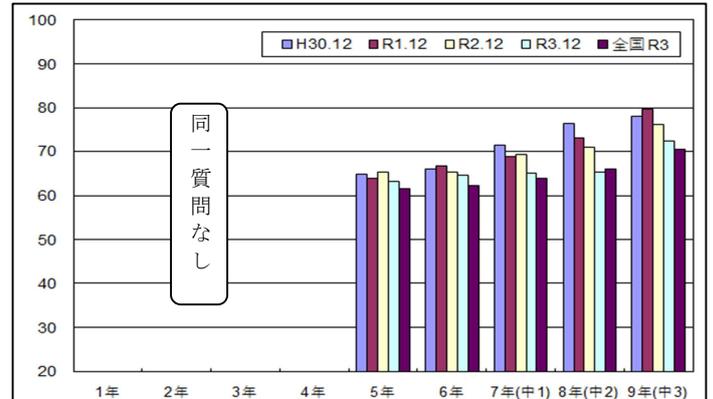
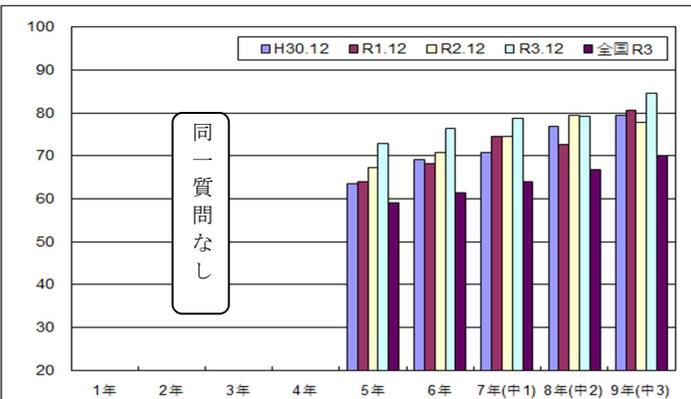
◆SNS上で仲間外れにされたり、ひどいことを書か
れたりして、傷ついたことがありますか。
⇒「一度もない・前はあった」と回答した割合

◆自分がいつ、いじめのターゲットになってしまうか、
不安を感じることがありますか。
⇒「一度もない・前はあった」と回答した割合



◆信じていた友だちから、思いもよらぬ言葉を聞か
されたり、つらい態度をとられたりして、傷ついたこと
がありますか。⇒「一度もない・けんかはしても傷つ
くことはない」と回答した割合

◆仲のいい友だちでも、本音では自分のことを悪く思っ
ているかもしれない、と不安に思うことがありますか。
⇒「一度もない・前はあった」と回答した割合



SNS上で、いじめにあったことがないと回答している子どもの割合が全国平均値と比べて高く推移しています。「対人ストレス」を感じていない子どもの割合は、例年、全国平均値より高い結果がでています。特に、「自分がいつ、いじめのターゲットになってしまうか、不安を感じることがありますか」という質問では、全国平均値と比べて、不安に感じている割合が少なく、昨年度の肯定率よりも高く推移しています。

しかし、「信じていた友だちから、つらい態度をとられて、傷ついた」「仲のいい友だちの本音が不安だ」という質問においては、全国平均値と比べ高く推移していますが、2～3割の子どもが傷ついたり不安に思ったりしていると回答していることがわかります。漠然とした「自分がいじめのターゲットになってしまうのではないか」という不安は感じていないが、仲のいい友だちとの関係に不安を感じている傾向がうかがえます。

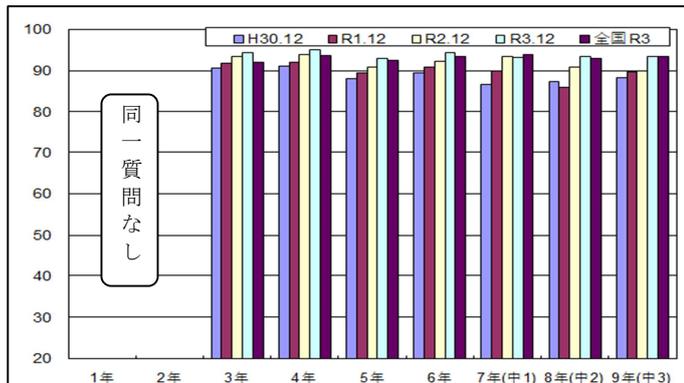
こうしたデータを踏まえ、各学校においては、学級・学年における人間関係づくり、いじめやネットトラブルの未然防止の授業、情報モラルに関する学習等の取り組みを引き続き行っていきます。また、周りの大人も、子どもたちからのサインを見逃さないよう、しっかりと見守っていく必要があります。

つらい思いをしたり、不安に思ったりすることは、相談しようね！



【学級の絆】仲間の意識は…

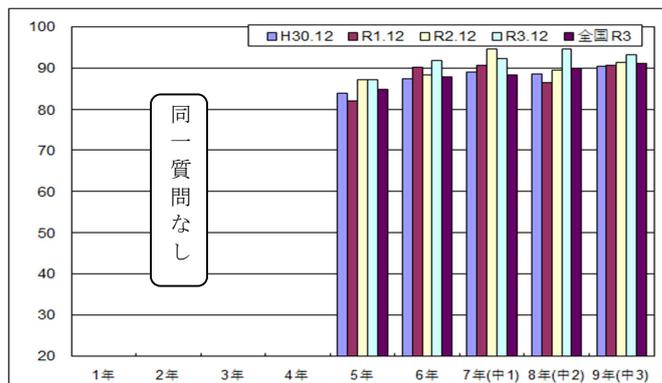
◆あなたのクラスには、いいところがあると思いますか。



クラスのいいところがあるって
素敵でござる！

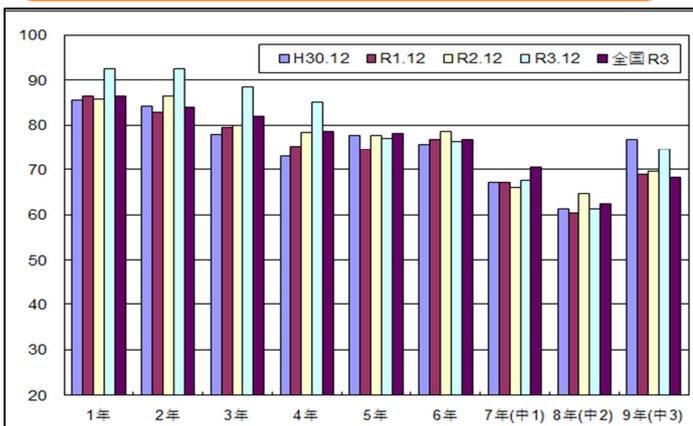


◆球技大会やクラスの発表会などがあるとき、あなたのクラスは盛り上がり、団結しますか。



【学習習慣】家庭学習は…

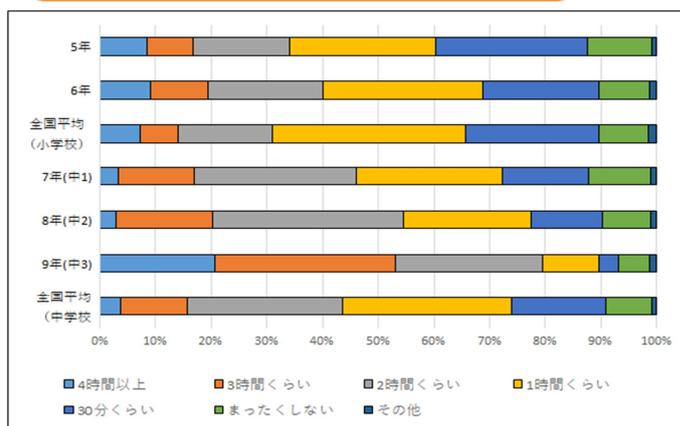
◆テストでまちがえた問題は、あとでやり直していますか。



復習をがんばろうね！



◆学校の授業以外に、平日(月～金)1日どれくらいの時間、勉強をしますか。



学級の絆について、「クラスにいいところがある」の肯定率は、小・中学生ともに R2 年度より上がり、90%を超える数値です。「盛り上がり、団結しますか」の肯定率は学年が上がるに従って高くなる傾向にあり、全国平均値と比較しても高い値です。特に中学生については、学習の量や授業時間が増える中で、各行事が学校生活をおくる上でかせない要素となっていると言えます。最も高い値を示している中学3年生にとっては、地域の友人と過ごす最後の学年であり、卒業後は進路が各々分かれることなども、気持ちが高まり、学級が団結することに繋がるのではないかと考えます。

学習習慣について、「まちがえた問題は、あとでやり直しているか」は、学年が上がるにつれて肯定率は下がっており、全国平均値と同じ傾向にあります。「学校の授業以外の平日の勉強時間」については、小学生は1時間、7年(中1)・8年(中2)は2時間、9年(中3)は3時間ぐらいが最も数値が高くなっています。中学3年生は、高校受験をひかえているため、家庭や塾等での勉強時間が増えていると考えられます。中学生は、全国平均値と比較しても勉強時間が長い傾向にあり、学習意欲への高さがうかがえます。予習や復習に取り組むなどの日々の積み重ねは、授業内容の理解や定着に繋がります。授業以外の時間の使い方を工夫し、自主学習ノートなどを活用しながら、学習の習慣づけを行うことが大切です。



各校では、成果と課題を明確にし、取り組みの検証を行い、指導に活かしていきます。

【箕面っ子の自己肯定感】

- 「家族や先生に相談できる」と感じている子どもたちの割合の傾向は、学年によって多少の違いはありますが、おおむね高く推移しており、家族や先生に相談できる関係を築けていることがうかがえます。また、「自分にはいいところがある」「周りから期待や頼りにされている」と感じる割合も、多くの学年で全国平均値よりも高くなっています。

自分は頼りにされている
期待されている



自分に自信がもてる
学校には自分の居場所がある



自己肯定感が高まる

という、良い流れをつくっていきます。

【いじめのサイン】

- 「いじめはよくないことだ」ということは、子どもたちはわかっています。令和4年度は、いじめを止める、つらい思いをしている人の味方になるにはどうしたらいいか等、いじめの未然防止に力を入れていきます。また、子どもたちに自分のつらい気持ち(SOS)を発信することの大切さを伝えるとともに、子どもたちが教職員にSOSを発信しようと思えるよう、「共感・傾聴」を大切にします。各校において、いじめの未然防止策や対応中の事案の進捗状況を協議する「校内いじめ対策委員会」を定期的実施しております。対策委員会のメンバーは教職員だけでなく、SC(スクールカウンセラー)、SSW(スクールソーシャルワーカー)といった専門家も入り、多面的にみることを大切にしています。
- インターネットやSNS上でのいじめは、なかなか表面に出にくい場合が多いです。インターネットやSNSを使用し始める時期が、小学校中学年頃と低年齢化が進んでいます。いじめが重篤化しないよう、日々、子どもたちの表情や言動を気にかけて、各学級における人間関係づくりの取り組みや情報モラル教育の充実とともに、周りの大人が子どもたちのサインを見逃さず、しっかりと見守っていく必要があります。

【学級の絆】

- 「自分のクラスには、いいところがある」と言えるには、学級が子どもたち一人ひとりにとって安心できる居心地の良いものであることが大切です。子どもたちが、学級での成功体験や達成感を積み、「自分たちはできる」と感じるができるよう、今後も取り組みを進めていきます。

【社会性・規範意識】

- 社会性の育成のため、引き続き、思いや考えを伝え合う授業を各校で実施します。
- 集団生活におけるきまりやルールを主体的に判断し、行動しようとする規範意識を育てるために、役割や仕事に対する責任感を意識させ、役割を果たした時にはほめることにより達成感を持たせるよう、取り組みを進めていきます。

【学習習慣】

- テスト後のやり直しをしている割合は、学年が上がるにつれて肯定率が下がる傾向にあります。小学校低学年のうちから、やり直しの仕方・大切さについて指導していきます。
- 学習をする際に、課題に対して、どれくらいの時間で取り組むか計画立てる習慣を小学校のうちから身につけるよう指導していきます。